

北光

第 147 号

平成22年8月6日



北光会 (<http://www.hokkokai.com>)

秋田鉦山専門学校
秋田大学鉦山学部 同窓会
秋田大学工学資源学部

秋田大学工学資源学部は、明治44年(1911年)に秋田鉱山専門学校として新入生を迎えて以来、
平成23年(2011年)に創立100周年を迎えることになります。

目 次

巻頭言	千葉 到	1
事務局長就任挨拶	神谷 修	2
会長便り	菊地 芳朗	3
平成22年度第1回理事会・通常総会報告		4
学部創立100周年記念事業報告		
記念事業の概要と進捗状況	行松 健一	15
寄附者御芳名		16
国際資源学教育研究センター設置記念式典の報告		
	水田 敏夫	21
大学支部「サラダ&スウィーツビュッフェ」開催報告		
	今野 和彦	22
「寄稿」		
秋山元雄君、奈良喜蔵君を偲んで	船橋 進	23
秋山元会長の訃報に接して	石川 浩次	24
通信教育、我が道を行く	中原 主一	25
地球の気候変動と石灰石鉱業	今井 忠男	26
「秋田大学地域アカデミー」を実施します		28
秋田大学公開講座「環境と資源が誘う先端科学の旅」		29
「学内散歩－新築の建物－」		30
北から南から		31
母校便り・会員便り・会員消息		40
事務局から		42
訃報		42
編集後記		44
学部創立100周年記念寄附者御芳名		49

卒後就職半世紀の回顧

北海道支部長 千 葉 到 (GS35)



春まだ早い昭和35年3月、多くの寮の後輩に見送られて夜行列車で秋田駅を去った。あれ程の感動と寂しさを同時に味わった事は未だかつて経験した事ありません。受験時、当時旺文社の「蛍雪時代」で、大学・寮の

紹介があり、それを読み強い入学動機になりました。無事に入学、桂林寮に入寮する事が出来、幾度か退寮の話もありましたが、結局4年間お世話になりました。そこでの数多くの体験は後の人生に強烈な生き様を教えて頂き、その後本年で丁度50年が経過しました。先般たまたま3年次後半から卒業までの日記帳が出てきました。50年前の2月10日、鉾山地質の謝恩会が開催され、各講座の先生からの訓話が記載されていました。紙面の都合で紹介できないのが残念です。

故丹 桂之助先生の指導のもと、全国公募の厳しい入社試験に、辛うじて合格しました(落ちるかもしれないので、次は九州の炭鉾と言っていました)。特殊法人北海道地下資源開発(株)で、国が9億、民間が1億出資、計10億資本金の会社でした。主に北海道の炭田の埋蔵量調査で、各地で1,500m級の炭探試錐(ボーリング)を施工しました。昭和30年代の後半はいよいよ日本の石炭産業も衰微の一途を辿り、会社も軌を一にして業務量が減少してきました。丁度設立10年で行政改革により廃止となりました。全国の特に工業高校から多くの優秀な生徒を採用し、10年で解散するとは想像もつきませんでした。私も在職8年、主事という立場で退職しました。会社都合による解散という事で、次の職場(政府系)も内々定してましたが、親の事情等により入社しませんでした。

国の施策に疑問を持ちながら、悶々としなが

らも同じ境遇の先輩、同期と3人で止む無く無一文の何もない会社、現防災地質工業(株)を設立しました。設立後、10年もそれ以上も、いつ倒産するかと思いつつ、その会社も本年43年目を迎えました。平成5年から7期14年間代表者に就任し、一昨年会長職に就きました。創立30年には小著「風雪に耐えて」…(会社30年史と私事)を執筆し配布、式典には故本多 朔郎元鉾山学部長(名誉教授)、大口 健志名誉教授に遠路出席して頂き、成功裏に終わり感激しました。

平成9年には札幌市とミュンヘン市の姉妹都市提携25周年記念で、市建設局長外、企業10社に加わりドイツ、オーストリア、オランダと主に道路事情視察した事は楽しい思い出になりました。また任期中、道知事感謝状3回、札幌市建設局長表彰1回受賞し、社員と共に努力が報われた事を嬉しく思いました。

年齢と共にいろいろの役職も廻ってきて、関連業種の道地質調査業協会、道環境保全技術協会、道森林土木設計協会、他に札幌北法人会副会長(本年5/25、全国法人会総連合会長功労賞表彰)、札幌商工会議所常任理事等、その他勤めています。

何よりも平成15年から北光会道支部長に就任、それは重責です。大学の法人化に伴い同窓会も強い絆が必要になりました。広い道内でどのように活性化、楽しい会にするか考え、実行していますがまだ不十分です。いよいよ平成23年は学部創立100周年記念です。後世に残る記念事業にすべく同窓生の一層のご支援もお願いいたします。

「なぜ日本はリスクをとる指導者が現れないのか」塩野 七生著(文春新書)。企業経営も同じです。最後に“後輩よ臆することなく果敢に挑戦”して下さい。これが国立秋田鉾専建学の精神です。

新たな100年に向けての船出

北光会事務局長 神 谷 修 (MS51)



工学資源学部創立100周年を間近に迎えた意義ある平成22年4月より、皆さまからの命を受けて歴史ある北光会の事務局長の大任を頂きました神谷修と申します。何卒、よろしくお願い申し上げます。昭和28年に秋田県

横手市の木工職人の息子として生まれ、幼少のころより「ものづくり」に目覚め、昭和47年より秋田大学鉱山学部機械工学科で学び、昭和51年に卒業し、昭和53年大学院修了後母校に奉職して今に至っております。北光寮で4年間叩きあげられた、北光魂は私の骨の髄まで染み込んで今も赤々と燃えております。

時代はめぐり、伝統の工学資源学部に新たな追い風が吹いてきたと考えます。オバマ大統領の「グリーンニューディール政策」を受けて日本政府が打ち出した「緑の政策と社会の変革」では、自然エネルギーと環境ビジネスを重視しており、これらは秋田の得意分野であり、秋田に光が当たってきたと言えます。それを示す事実として、日本政府の強力な支援と秋田大学学長の吉村昇先生や工学資源学研究科長の西田眞先生らの努力で実現した「国際資源学教育研究センター」があります。今、同センターの教員は、アフリカの資源大国であるボツワナ共和国に赴き、資源系の大学を創立するために尽力しております。工学資源学部の内資源系の活躍は、これからの発展の推進力となる一つの車輪と言えます。

さらに本学部の工学系では、「ライフサイクルデザイン」を旗頭にして、県内の大学と連携しながら共同大学院を設立することを目指し、持続可能な社会の形成に貢献しようとしております。これは、もう一つの車輪となります。今こそ、資源系と工学系が車の両輪となり協力し

て、世界に向けて前進しようではありませんか。そのためには、現役の教職員と学生そして北光会というOB組織が、異体同心の心意気で一丸となって立ち向かうことが大切です。

さて、今ひとつの北光の切り口は「ものづくり」です。去る6月18日には、能代市の武田木工製作による組子建具が総理大臣賞を受賞しておりました。銀線細工や木目金（もくめがね）などの伝統技術から、世界トップシェアの庄内鉄工の木材スライサー、JSQの「石英るつぼ」やDOWAのレアメタルパウダーなど特色ある「世界一のものづくり」が光ります。私は今、工学資源学部附属「ものづくり創造工学センター長」として秋田に特色あるものづくりを推進しております。その中で、学生は「ロケット」「秋田杉職人」「エコ発電」「秋田ヨーグルト」などの自主プロジェクトを立ち上げ、若い力でのものづくりをはじめました。このような活力ある学生を育成して、卒業後に北光会を通じて硬い絆で共に発展してゆく。これしかないと感じております。物事を進めるときに、マインドは大切であり、勝負は勝つと決めた方が勝つそうです。

100年前、鉱山専門学校創立と同じ年に、秋田県金浦出身の白瀬蘆中尉は、わずか200トンの漁船を改造した「開南丸」で南極へと船出しました。時の政府は、成功を危ぶみ一旦は決めた3万円の補助金を支給しなかったそうです。しかし、数々の困難を乗り越えて見事に南極の「大和雪原」に到達しました。一方、1910年に創立された秋田鉱山専門学校は、100年間という時代の荒波を越えて、今2010年より、資源、エネルギー、持続可能な社会という風を受けて新たな時代へ世界へと船出して参ります。私たちの強みは、工学資源学部とOB会との強い絆です。北光を旗頭にあらゆることに「勝つ」と腹を決めて熱く突き進んで参りましょう。今後とも、ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

会長便り

創立100周年記念事業 ～募金活動の現状～

菊 地 芳 朗 (GS34)



今回も、最初に悲しいことを申さなければなりません。

本会の顧問で元会長の秋山元雄さんが去る6月19日ご逝去されました。秋山さんは北光会・鉱業博物館は勿論のこと、特に関西支部を始めとして西日本の北光会の発展に

多大な貢献をなされました。

北光会の総会がありました同じ日にお亡くなりになりました。何かのご縁でありましょうか。葬儀に参列いたしまして、秋山さん、そしてご家族の皆さんの北光会に対する思いやりを深く感じました。

謹んで哀悼の意を表しますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、北光会ですが、去る6月19日総会を行いました（総会の内容につきましては、本号の「第59回通常総会報告」ご覧下さい）。

総会のなかで、最大の関心事は創立100周年記念の募金であります。先ず最初に多くの皆様からご芳志を賜りましたことについてお礼申し上げます。

6月30日現在：3,663名（件）（分割444名を入れると4,107名）総額1億5,985万円で、ここに来て漸く目標額3億円の半分を超えました。

内訳を見ますと

企 業：	156社	4,543万円
篤 志 家：	12名	137万円
教 職 員：	139名	899万円
学部後援会：	10回	2,308万円
北 光 会：	3,346名	8,098万円

となっております。

北光会の目標額は1億円で、8割を超えましたが、尚一層のご支援をお願いいたします。

募金が未だ低調な原因を見ますと、その一つに企業と教職員があります。

企業募金につきましては「会長便り」で幾度も申しております。確かに今日の経済業況のこともありますが、企業に十分なお願ひ訪問を行っていないことにあります。この度の総会で北光会も企業募金に

一段の力を入れるよう各支部をお願いしたところで、しかし、学部の行事である以上、先生方が率先して企業訪問を行うことも必要と思います。総会前日に行われました学内の募金委員会で西田研究科長（学部長）から企業訪問について約束を頂きました。これで進展するものと期待しております。

一方、教職員ですが、本号の「募金のご協力依頼」の「創立100周年記念事業寄付金納入状況（創立75周年記念の集計方法に準ずる）」をご覧下さい。上段の北光会員の教職員は学部を卒業された方々で、納入率は77.78%であります。

下段の教職員は卒業されていない方で、納入率は31.59%であります。現職の教員を見ますと卒業の有無に関わらず未納の方がおられます。学部の行事でありますので、宜しく願ひいたします。

総会の席上「企業や教職員に問題のあることは、現職の先生方が100周年事業に燃えていないからである」との意見のあったことを申し添えておきます。

北光会員を見ますと、各専攻長（学科長）の先生から全ての卒業生へ依頼状を送って頂きました。その結果、6月は301名の会員の皆様から611万円のご寄付を頂きました。協力して頂きました専攻長の先生方にお礼申し上げます。

募金期間も残すところ1年数ヶ月となりました。皆様のご協力を重ねて願ひいたします。

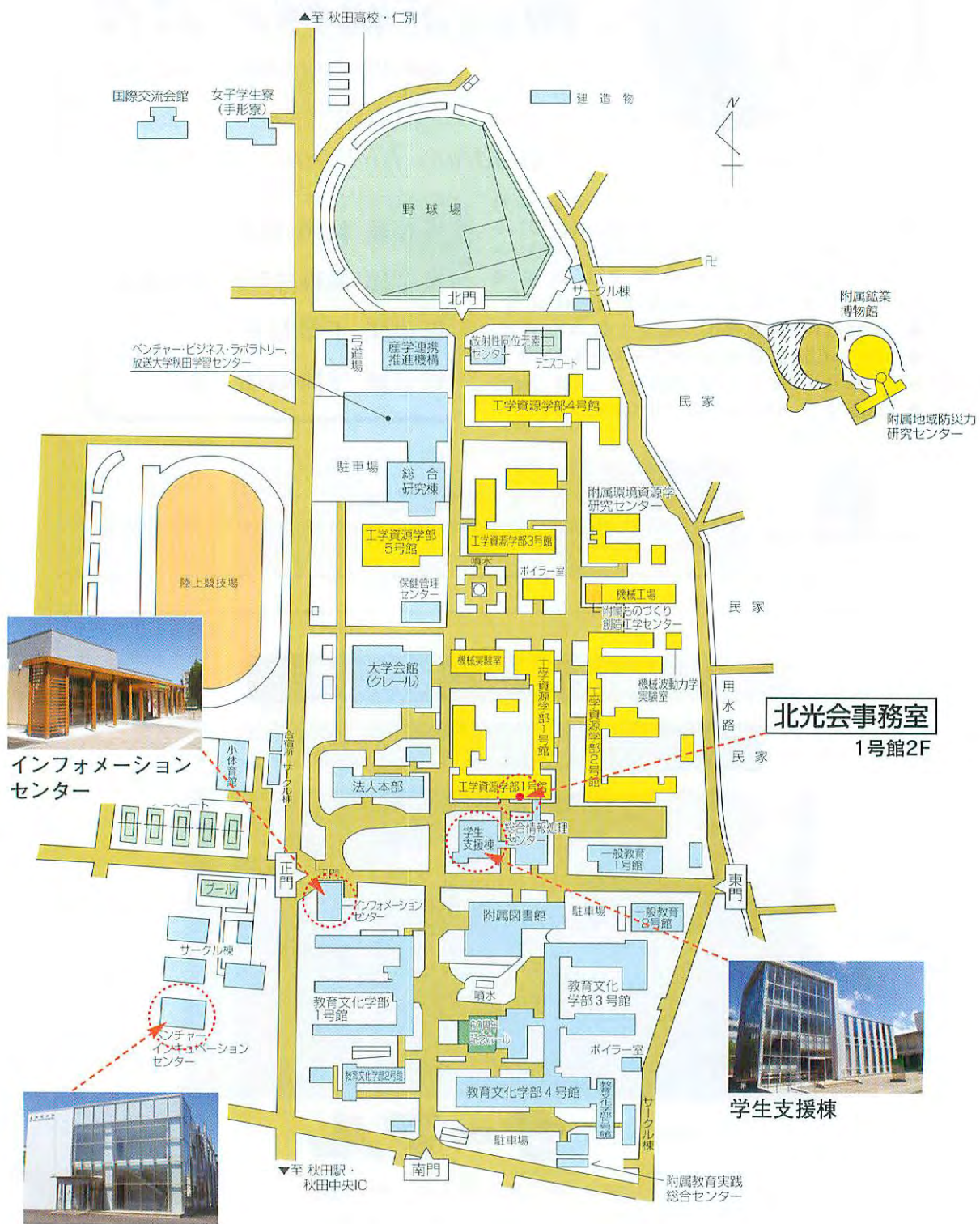
北光会自体の課題としては、永年のテーマでもあります会の活性化と会費納入率の向上があります。

活性化につきましては若年層、特に平成年度卒業生のことですが、最近各支部総会に平成年度卒業生の出席が多くなってきております。例えば、北海道では4名、東海北陸14名、九州5名、関西5名の出席がありました。総会では2名おられました。若年層の開発は会費の納入率向上につながるものと考えております。

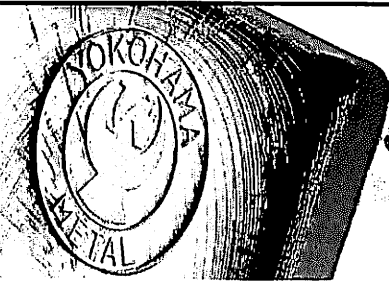
会費納入率は、コンビニでの振込のためか21年度の27.7%に対し22年度は30.2%となっております。北光会の100周年目標額1億円の設定は会費納入率30%を基礎に見積もっております。会費納入率の向上は、100周年募金の向上に関連するものと期待しております。

北光会は皆様の会費で維持されております。会費納入率の向上にご協力下さい。

手形キャンパスマップ



ベンチャー
インキュベーションセンター



横浜金属株式会社

終わりのない鉱脈は、都市にある。

純銀
999.9

Gold Silver Platinum Palladium Rhodium Ruthenium

- 社団法人日本金地金流通協会正会員
- L.M.E.(ロンドン金属取引所)銀地金公認ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金受渡供用品指定ブランド
- 東京工業品取引所 銀地金指定鑑定業者
- 日本工業規格表示許可工場(銀地金)
- ISO9001認証登録(横浜金属株式会社)
- ISO14001認証登録(横浜金属商事株式会社)
- ISO9002認証登録(裕昌金属工業株式会社)
- 社団法人日本経済団体連合会会員(横浜金属株式会社)

貴金属 精製・精錬

貴金属 歯科材精製・材料販売

貴金属 工業材料

貴金属 宝飾品加工販売



YOKOHAMA METAL CO., LTD.

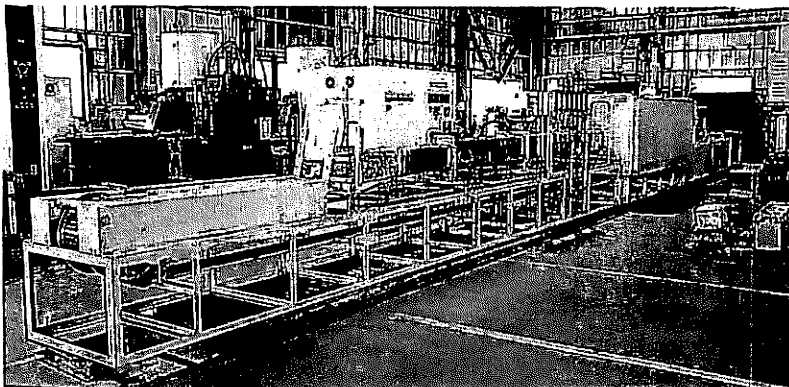
横浜金属グループ

横浜金属商事・JCY・裕昌金属工業(韓国)

本社/〒229-1132 神奈川県相模原市橋本台3-5-2 Tel 042(773)4411 Fax 042(773)4775
<http://www.yk-metal.com>

ステンレスの光輝焼鈍・硬化処理

精密鍛造の光輝球状化焼鈍



株式会社 **サーマル**

〒173-0014 東京都板橋区大山東町38-8

Tel.03-3962-4011 Fax.03-3963-0694

URL <http://www.e-thermal.co.jp> E-mail thermal1@sepia.ocn.ne.jp